

LEVEL

2

Web  
Tadoku  
Books

かがみ  
鏡のない村





朗読音声のダウンロード  
Audio download

## ★<sup>よ</sup>読む<sup>まえ</sup>前に Before you read

### 《<sup>たどく</sup>多<sup>よ</sup>読<sup>かた</sup>の読み方》

<sup>たどく</sup>多読とは、とてもやさしい<sup>ほん</sup>本から<sup>たの</sup>楽しくたくさん<sup>よ</sup>読んで<sup>にほん</sup>日本語を<sup>み</sup>身につけていく<sup>ほうほう</sup>方法です。

<sup>つぎ</sup>次の4つのルールを守って<sup>たの</sup>楽しく<sup>よ</sup>読みましょう。

1. やさしいレベルから<sup>よ</sup>読む
2. 辞書<sup>じしょ</sup>を引かないで<sup>よ</sup>読む
3. わからないところは、とばして<sup>よ</sup>読む
4. <sup>すす</sup>進まなくなったら、<sup>ほか</sup>他の<sup>ほん</sup>本を<sup>よ</sup>読む



### 《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.



これは、おかしおかしのお話です。  
越後（今の新潟県）のある村に  
正助という男が住んでいました。  
正助はお父さんと暮らして  
いました。



ある日、お父さんが病気になりました。  
正助は、一生懸命お父さんの世話を  
しました。でも、お父さんは死んで  
しまいました。





しょうすけ まいにち はかまい  
正助は毎日、墓参りをしました。

みず た もの とう  
水や食べ物を持ってお父さんのお墓に  
行くのです。結婚してから毎日行きました。

じゅうはちねんかん いちにち やす  
十八年間、一日も休みませんでした。

むら ひと  
村の人たちは、

しょうすけ ほんとう おとこ  
「正助は本当にりっぱな男だ」  
と言いました。



ある日、殿様がその話を聞いて、正助を  
お城に呼びました。

殿様「正助か」

正助「はい」

殿様「お父さんが死んでから十八年間、  
毎日墓参りをしていると聞いたぞ」

正助「はい」

殿様「いい息子だな。りっぱだ」

正助「いいえ、私は父さんの墓参りを  
しているだけですから」



殿様 とのさま

「いや、だれにもできることではない。」

正助 しょうすけ おまえはりっぱだ。

きれいな着物 きもの をやるぞ」

正助 しょうすけ

「着物 きもの はあります」

殿様 とのさま

「じゃあ、広い畑 ひろ はたけ をやるぞ」

正助 しょうすけ

「畑 はたけ もあります」

殿様 とのさま

「じゃあ、金 かね をやるぞ」

正助 しょうすけ

「金 かね はありません。でも、

金 かね はないほうがいいです。

たくさん金 かね があると働き はたら ませんから」



殿様<sup>とのさま</sup>「じゃあ、何もほしくないのか」

正助<sup>しょうすけ</sup>「ほしいものはありません。でも、

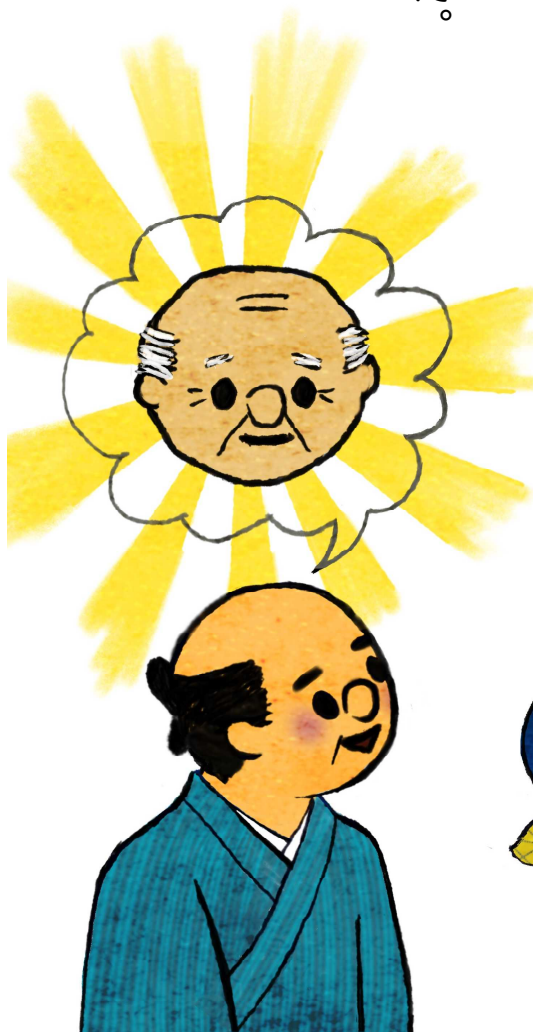
お願い<sup>ねが</sup>があります」

殿様<sup>とのさま</sup>「何だ<sup>なん</sup>。言いなさい」

正助<sup>しょうすけ</sup>「死んだ父<sup>とう</sup>さんに会<sup>あ</sup>いたいです」

殿様<sup>とのさま</sup>「え？」

殿様<sup>とのさま</sup>は困<sup>こま</sup>りました。





殿様は、小さな声で家来に聞きました。

殿様「正助は父親に似ているか？」

家来「はい、とても似ています」

殿様「じゃあ、あの鏡の入った箱を

持ってこい」

家来は、鏡の入った箱を持ってきました。

殿様「正助、この箱の中を見なさい」

正助「はい」

正助は箱の中を見ました。



正助<sup>しょうすけ</sup>「父さん！ここにいたのか！」

正助<sup>しょうすけ</sup>は、鏡<sup>かがみ</sup>の中の自分の顔<sup>かお</sup>を見て、お父さん<sup>とう</sup>がいますと思いました<sup>おも</sup>。

この村<sup>むら</sup>の人<sup>ひと</sup>たちは、まだだれも鏡<sup>かがみ</sup>を見たことがない

のです。正助<sup>しょうすけ</sup>は鏡<sup>かがみ</sup>の中のお父さん<sup>とう</sup>の顔<sup>かお</sup>を見て、

うれしくて泣き<sup>な</sup>ました。鏡<sup>かがみ</sup>の中のお父さん<sup>とう</sup>も

泣き<sup>な</sup>ました。

正助<sup>しょうすけ</sup>「あー、父さん<sup>とう</sup>、泣かないでください。

でも、父さん<sup>とう</sup>、若<sup>わか</sup>くなつたなあ」

殿様<sup>とのさま</sup>「その箱<sup>はこ</sup>を大切<sup>たいせつ</sup>にしないで。しかし、だれにも

見<sup>み</sup>せてはいけないよ」



しょうすけ 正助は、かがみ 鏡をもらって、よろこ 喜んで家に

かえ 帰りました。そして、かがみ はこ 鏡の箱を納屋に

も 持っていきました。それから、まいあさ 毎朝、まいばん 毎晩、

なや 納屋に行きました。

おく 奥さんのおみつはしんぱい 心配しました。

しょうすけ 正助さんは、まいあさ 毎朝、まいばん 毎晩、納屋に

い 行くけれど、どうしてだろう？ —



ある日、おみつは正助が畑に行った後、

納屋に入りました。すると、おみつの

知らない箱があります。おみつが箱を開けると…、

「あつ、女だ！ 女がいる！」

おみつは、びっくりしました。

鏡の中の女もびっくりしました。

「あんたはだれ？ どこから来たんだ？」

おみつも鏡を見たことがないのです。





しょうすけ  
正助が帰ってきました。

しょうすけ  
正助 「おい、おみつ、今帰ったよ」

おみつ 「……」

しょうすけ  
正助 「おなかですいた、ごはんはまだか？」

おみつ 「……」

しょうすけ  
正助 「おみつ、どうしたんだ？ 病気か？」

おみつ 「納屋なやの中の女おんなはだれですか？」

しょうすけ  
正助 「納屋なやの中の女おんな？ え？ ああ、

あの箱はこの中なかを見たんだな。

あれは父さんとうだよ」

おみつ 「父さんとう？ いいえ、女おんなです……。

あの女おんなはだれですか」



おみつが正助を叩きました。

正助 「あ、痛い！」

おみつ 「ばか、ばか！」  
正助 「痛い、痛い、痛い！」

隣の寺の尼さん（女のお坊さん）が  
ふたりを聞いて、正助の家に来ました。  
尼 「正助、どうしましたか？ おみつ、

泣かないで」

おみつ 「納屋の中に……」

尼 「納屋の中に？」

おみつ 「納屋の中に女がいるんです」



尼<sup>あま</sup> 「えー？女<sup>おんな</sup>が？」

正助<sup>しょうすけ</sup> 「あれは、父<sup>とう</sup>さんです。女<sup>おんな</sup>じゃありません」

おみつ 「いいえ、女<sup>おんな</sup>です！箱<sup>はこ</sup>の中<sup>なか</sup>に女<sup>おんな</sup>が

いるんです」

正助<sup>しょうすけ</sup> 「いいや、父<sup>とう</sup>さんだ。女<sup>おんな</sup>じゃない！」

尼<sup>あま</sup> 「じゃあ、私<sup>わたし</sup>が納屋<sup>なや</sup>に見<sup>み</sup>に行きま

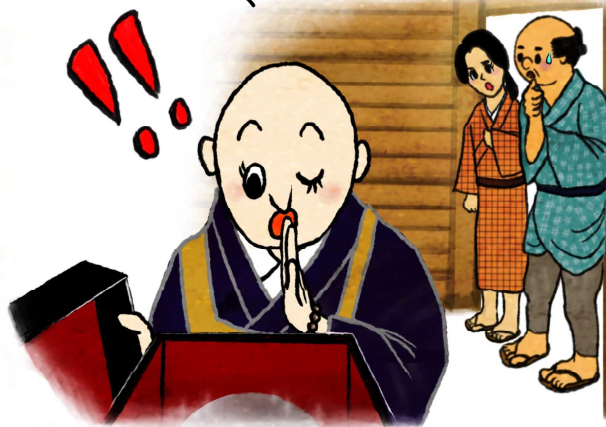
しょう」

尼<sup>あま</sup>さんは、納屋<sup>なや</sup>に入<sup>はい</sup>っていききました。そして、

箱<sup>はこ</sup>を開<sup>あ</sup>けました。尼<sup>あま</sup>さんも鏡<sup>かがみ</sup>を見<sup>み</sup>たことが

ありません。

尼<sup>あま</sup> 「あー、女<sup>おんな</sup>だ。女<sup>おんな</sup>がいる。でも・・・」



あま  
尼さんは納屋<sup>なや</sup>から出て<sup>で</sup>きました。

あま  
尼「正助<sup>しょうすけ</sup>、おみつ、喧嘩<sup>けんか</sup>は終わり<sup>お</sup>！

箱<sup>はこ</sup>の中<sup>なか</sup>には、女<sup>おんな</sup>がいます。でも、

だいじようぶ。女<sup>おんな</sup>は悪い<sup>わる</sup>ことを

したと思<sup>おも</sup>ったのでしろう。

あま  
もう尼さんになっ<sup>あま</sup>ていましたよ」





かがみ むら  
鏡のない村

発行日：2026年1月31日

再話/監修：NP0多たげんごご多たどくどく言語多読

挿絵：いけだ池田あきつ



NPO多言語多読

tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>